



考えよう 家族みんなで スマホのルール

私たちは子供たちの情報モラル育成に取り組みます

〔協力団体名等〕 文部科学省

文科省でも対応策を検討



早期新築が望まれる男衾中学校



問診風景（イメージ写真）



昨年暮れの福引き抽選所の行列

小中学校で情報モラル教育の推進を



鈴木詠子
議員

答弁⇒学校・保護者・地域で連携推進していきます

問 氾濫する情報化社会の中、子どもたちのスマートフォン等の利用によるネット依存やSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）等の利用に伴うトラブル等、さまざまな課題に子どもたち自らが善悪を判断する力を身につけ、情報社会の危険から身を守るための力を育成することが大変重要と考えます。

そこで、当町の小中学生のスマートフォン・携帯電話の所有率と学校での取り扱いについて伺います。

答 所有率は小学校が18.5%、中学校が46.0%です。取り扱いについては、小学校で全面持ち込み禁止が5校、原則禁止が1校。中学校で全面持ち込み禁止が2校、原則禁止が1校です。原則禁止に関しては、特別な事情により保護者から相談があった場合、校長の判断で認めることもあります。

SNSによるいじめ被害は

問 SNS等によるいじめ被害、有害サイトによる被害はありますか。

答 誹謗中傷メールを受けたという事案が1件ありましたが、既に解決をしています。有害サイトによる被害報告はありません。

問 愛知県刈谷市の「夜9時以降は携帯を使用しない」と呼びかけた取り組みや、担当だけでなく全教員が「LINEははずし」等の現状を学ぶ小平市の取り組み等を検討し、学力向上の面からも、学校や地域が危機感を共有すべきと考えます。今後の取り組みについて伺います。

答 担当教諭による情報モラル教育を全学校で実施しています。今後さらに研修内容を検討しながら取り組んでいきます。

男衾中学校の新築 現在の考えは



大久保幸夫
議員

答弁⇒第6次総合振興計画に位置づけ検討します

問 町長は、公約として男衾中学校の新築を掲げていますが、現時点での考えを伺います。

答 現時点での具体的計画はありません。今後は、議会並びに地元町民の皆様の意向を踏まえ、建設に向けて課題を整理し、第6次総合振興計画に位置づけ検討していきたいと考えます。

救急医療体制の強化は

問 町長は、公約として救急医療体制の強化促進を掲げていますが、当町の初期救急、第2次救急及び第3次救急医療体制の現状や課題は。今後どのように強化促進を図っていく考えなのか伺います。

答 町の救急医療体制は深谷市・大里郡の医療機関がネットワークを組み、病院医師と診療所医師が協力しています。入院などが必要な場合は2次、3次救急病院を紹介、熊谷市等の病院とも連携し救急医療体制を維持しています。

しかし、医師の減少が大きな問題であり、深谷市、熊谷市等と十分連携して可能な限り財政的支援を行うとともに、今後も医師会をはじめ、関係機関と連携・協議しながら強化促進を図っていきます。

問 費用対効果の検証と無駄の排除を公約としていますが、具体的にどんな形で進めていく考えなのか伺います。

答 職員が常に費用対効果を意識した上で、組織を挙げ対応していくもので、専門の機関を設置するという方法はとらず、まずは市内の内部評価を行っていきたく考えます。具体的な評価方法は、後期基本計画に位置づけている事務事業評価を導入したいと考えています。

中学校新築

情報モラル教育

がん検診受診率 向上の取り組みは



佐藤理美
議員

答弁⇒検診の土・日実施や無料クーポンを送付しています

問 国民の2人に1人ががんを発症し、3人に1人ががんで死亡するといわれています。県では、死亡原因が1位となっているがん対策の推進に、県と市町村会、医師会が共同宣言を行い、がん検診受診率の向上を図るとしています。そこで、がん検診受診率向上の取り組みについて伺います。

答 特定健康診査と各種がん検診を同日に受診できるセット健診や土曜日・日曜日での実施とともに、大腸がん・子宮がん・乳がん検診については、引き続き無料クーポン券を送付し、受診率の向上を図っていきます。

ピンクリボン活動で、がん検診を

問 10月はピンクリボン月間となっています。ピンクリボン活動や成人式での胃がんリスク検診等の実施について伺います。

答 さらに受診率向上を図る中で、今後検討していきたいと考えています。

問 胃がんリスク検診導入について伺います。

答 現在胃がん検診においては、問診時にバリウム検査に適應できない方のみ、胃がんリスク検診を行っていますが、今のところ導入の考えはありません。

問 町として、がん検診の対象となっていない前立腺がん検診の導入について伺います。

答 近隣市町の導入状況を踏まえ、深谷市・大里郡医師会との調整を行い、今後導入に向け検討していきます。

町の土台づくり

がん対策推進

次世代につながる 町の土台づくりとは



岸岸克明
議員

答弁⇒公約を実行していくことでつくっていきます

問 花輪町長は、町長選において次の世代に引き継ぐためのしっかりとした土台づくりを主張しています。若年世代を中心に人口減少が続く中、どのような土台をつくっていくのか伺います。

答 町としての基盤整備を進めるとともに、健康寿命を延ばすこと、暮らしの安心・安全を図ること、働く場を確保することとあわせて公約に掲げた施策を十分な話し合いを持って、実行していくことが土台づくりになると考えています。

基本計画にある事業は継続か

問 後期基本計画にある絵本と童話の森公園整備、ふるさと物産館建設、消防寄居分署建て替えなどの大型建設事業は継続するのか伺います。

答 既に現状と乖離してしまっているものや検討を要するものについては、必要に応じて見直していきます。

問 現在の執行体制である21課1局1班を見直し、部制を敷いて組織をもう少し大きくまとめ、政策立案能力を高めてはかがでしようか。

答 組織については時々の変化に対応できるよう、最もよい状態をつくっていきます。

問 寄居駅南口、中心市街地活性化に向けた考え方について伺います。

答 中心市街地活性化法を活用して、行政と地域住民が連携を図りながら、地域関係者の主体的取り組みに対し、積極的に後押ししていきます。